第１回ホストタウン首長会議
議事要旨

日　時：平成 30 年６月６日（水）13：45～14：30
場　所：官邸２階大ホール
出席者：

東京オリンピック・パラリンピック担当大臣	鈴木 俊一（すずき しゅんいち）
内閣官房副長官（参）	野上 浩太郎（のがみ こうたろう）
文部科学（兼）内閣府（兼）復興大臣政務官	新妻 秀規（にいづま ひでき）
内閣総理大臣補佐官 （国土強靭化及び復興等の社会資本整備、地方創生、 健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当）	和泉 洋人（いずみ ひろと）
内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長	平田 竹男（ひらた たけお）
内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局企画・推進統括官	多田 健一郎（ただ けんいちろう）
〃	平垣内 久隆（ひらごうち ひさたか）
〃	源新 英明（げんしん ひであき）
内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局総括調整統括官	芦立 訓（あしだて さとし）
内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局セキュリティ推進統括官	山本 仁（やまもと まさし）
内閣官房副長官補付内閣審議官	平井 裕秀（ひらい ひろひで）
内閣官房副長官補付内閣審議官	開出 英之（かいで ひでゆき）
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長	信濃 範（しなの　まさのり）
内閣府大臣官房政府広報室長	原 宏彰（はら ひろあき）
内閣府地方創生推進室次長	坂井 和也（さかい かずや）
警察庁長官官房審議官（警備局・2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当）	石田（いしだ たかひさ）
復興庁統括官	加藤 久喜（かとう ひさよし）
総務省大臣官房地域力創造審議官	池田 憲治（いけだ けんじ）
外務省国際文化交流審議官	宮川 学（みやがわ まなぶ）
スポーツ庁次長	今里 譲（いまさと ゆずる）
文化庁次長	中岡 司（なかおか つかさ）
農林水産省大臣官房審議官（兼農村振興局）【代理出席】	太田 豊彦（おおた とよひこ）
経済産業省大臣官房商務・サービス審議官	藤木 俊光（ふじき としみつ）
国土交通省総合政策局長次長【代理出席】	松本 年弘（まつもと としひろ）
観光庁審議官【代理出席】	祓川 直也（はらいかわ なおや）
環境省大臣官房審議官【代理出席】	米谷 仁（こめたに ひとし）
全国知事会事務総長	古尾谷 光男（ふるおや みつお）
全国市長会社会文教部長	笹島　晃司（ささじま こうじ）
全国町村会事務総長	武居 丈二（たけい たけじ）
東京オリンピック･パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長	山本 隆（やまもと たかし）

出席自治体：

釧路市
網走市
士別市
登別市
弘前市
盛岡市【代理出席】
大船渡市
遠野市
釜石市
雫石町
石巻市【代理出席】
蔵王町【代理出席】
美郷町
大潟村【代理出席】
山形市【代理出席】
米沢市
鶴岡市【代理出席】
酒田市【代理出席】
寒河江市
上山市
村山市
長井市
天童市
東根市
南陽市
郡山市
いわき市【代理出席】
南相馬市
本宮市
猪苗代町【代理出席】
龍ヶ崎市
笠間市
常陸大宮市
境町【代理出席】
栃木県【代理出席】
那須塩原市【代理出席】
前橋市
高崎市
沼田市
埼玉県【代理出席】
さいたま市【代理出席】
所沢市【代理出席】
新座市【代理出席】
三郷市
鶴ヶ島市【代理出席】
三芳町
寄居町
千葉県【代理出席】
館山市
松戸市【代理出席】
成田市【代理出席】
佐倉市【代理出席】
市原市
浦安市
印西市【代理出席】
山武市
横芝光町
文京区【代理出席】
目黒区
江戸川区【代理出席】
青梅市【代理出席】
府中市
調布市【代理出席】
東村山市
武蔵村山市
神奈川県【代理出席】
横浜市【代理出席】
川崎市【代理出席】
相模原市【代理出席】
平塚市
箱根町【代理出席】
新潟県【代理出席】
長岡市【代理出席】
十日町市
上越市【代理出席】
石川県【代理出席】
小松市【代理出席】
福井市
山梨県【代理出席】
甲府市
山梨市【代理出席】
北杜市
笛吹市
甲州市
長野県【代理出席】
長野市
上田市
佐久市【代理出席】
東御市【代理出席】
安曇野市【代理出席】
岐阜県【代理出席】
岐阜市
高山市
下呂市
浜松市
三島市
焼津市
藤枝市【代理出席】
御殿場市【代理出席】
牧之原市
豊橋市【代理出席】
豊田市【代理出席】
稲沢市
舞鶴市【代理出席】
亀岡市
京丹後市【代理出席】
大山崎町
池田市
泉佐野市【代理出席】
神戸市【代理出席】
姫路市【代理出席】
明石市
加古川市
西脇市
奈良市
大和郡山市【代理出席】
天理市
橿原市
和歌山県【代理出席】
鳥取県【代理出席】
奥出雲町
邑南町
岡山市【代理出席】
倉敷市【代理出席】
真庭市
美作市
広島市【代理出席】
山口県【代理出席】
宇部市
岩国市
長門市
徳島県【代理出席】
香川県【代理出席】
高松市
丸亀市
坂出市
愛媛県【代理出席】
福岡県【代理出席】
北九州市【代理出席】
飯塚市
宗像市【代理出席】
みやこ町
築上町
佐賀県【代理出席】
嬉野市
熊本県【代理出席】
大分市【代理出席】
別府市
中津市【代理出席】
宮崎県【代理出席】
宮崎市
都城市
日向市
鹿屋市

１．挨拶

〇鈴木東京オリンピック・パラリンピック担当大臣

・本日はホストタウン首長会議にお集まりいただき感謝。皆様におかれては、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、日ごろより、ご協力を頂いていることに感謝申し上げる。

・今回、初めて、ホストタウンの首長の皆様が一同に会する会議を開催させていただいた。

・東京大会の開会まで２年余り。本日お集まりのホストタウン自治体におかれては、既に相手国・地域の選手あるいは市民の方々との交流を始めているところも多いかと思う。

・このような中、ホストタウンは登録件数 227 件、自治体数としては 298、相手国・地域数 95 となった。

・復興オリンピック・パラリンピックを具体化するために昨年９月に設置した復興「ありがとう」ホストタウンは 15 団体まで広がった。また、東京大会を契機に共生社会の実現の観点から昨年 11 月に設置した共生社会ホストタウンも 13 団体に広がっている。

・ホストタウンの取組は、事前キャンプばかりではなく、食や文化、観光など、地域の実情に応じた様々な展開が可能。競技を終えた選手にホストタウンを訪問してもらう大会後交流に重点を置いた取組も少しずつ増えてきている。

・本日の会議は、ホストタウンにおける取組状況の共有はもとより、東京大会全体の準備・進捗状況を皆様にも把握していただくことがホストタウンの取組を進める上で重要と考え立ち上げたもの。

・岩手県大船渡市、静岡県浜松市、北海道士別市、茨城県笠間市、福井県福井市の皆様から、それぞれの特徴ある取組についてご発表いただくほか、私どもからは、国の関連施策や東京大会の準備状況等について幅広く情報提供をさせていただく。

・ホストタウン同士のノウハウの共有や連携などを深めていただくとともに、東京大会の成功に向け、そして日本全国の機運を盛り上げる場になればと考えている。

・皆様の今後のホストタウン活動の一助になることをお祈りして、私からの挨拶とする。

〇野上内閣官房副長官

・本日は、お集まりいただき感謝申し上げる。

・2020 年の東京大会まで２年余りとなった。２年後の今ごろは聖火リレーが日本中を駆け抜け、大会の開会に向け国民の機運は益々高まっているだろう。

・東京大会の成功には、日本全国での盛り上がりが欠かせない。そのためには、全国各地で世界各国の選手を盛り立てるホストタウンが重要な役割を担う。本日お集まりのホストタウン自治体の皆様にとってはもう２年しかないという心持ちなのでは。この２年でどういった交流を行うのかということが非常に重要。

・選手には、大会の前後で各地域を訪問し、日本の食や文化のすばらしさを体験して帰っていただくことにより、日本と世界の架け橋になってもらいたい。こうした日本への親しみを世界の方々に発信してもらうことが将来の日本にとって大きな財産になる。

・先ほど鈴木大臣からお話しのあったように、復興「ありがとう」ホストタウン、共生社会ホストタウン、そして大会後交流に重点を置いたホストタウンといった、ホストタウンの仕組みを使った新しい切り口での取組が各地で展開されていることは、非常に意義がある。

・本日は各地の取組事例も、この後、発表いただけると聞いており、各地の様子を伺えることを楽しみにしている。各自治体の首長の皆様におかれては、後で振り返って、ホストタウンになって良かった、ホストタウンの取組が地域の発展のエンジンになった、と思えるような取組ができるよう、是非、参考にしてもらいたい。

・また、日本文化の魅力や食文化の発信など、大会成功に向けた政府の取組や、大会組織委員会の取組な

どもお伝えする。皆様におかれては、この会議が、新たな情報の獲得やホストタウン同士の情報交換の場となれば幸い。
・2020 年に向けて、内閣官房オリパラ事務局を中心に、関係府省庁一丸となって今後も積極的にホストタウン活動の支援を行っていく所存。
・本日の会議をきっかけとして、各地において多様な取組が広がっていくことを期待して挨拶とする。

２．議事
（１）　開催趣旨について
（多田内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局企画・推進統括官より説明）
・資料１をご覧いただきたい。ホストタウンを通じて全国で地域の活性化を図っていく観点から、ホストタウンに関する取組の情報を首長の皆様が共有するとともに、東京大会そのものの様々な動きを情報としてお届けすることが、ホストタウンの更なる発展に寄与すると考えられることから開催するもの。

（２）　ホストタウン自治体からの発表
（戸田大船渡市長より説明）
・当市の復興「ありがとう」ホストタウンの交流状況についてご説明申し上げる。
・まず、東日本大震災からの復興に際しては、全国各地より多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げる。
・今もなお、国内外からのご支援をいただきながら、早期復興に向けて鋭意取組を進めているところであるが、震災直後、いち早く当市に駆けつけ捜索・救助活動を行ったのが、米国の救助隊であった。
・また、ボストンを拠点に活動するボランティア団体が約７か月にわたり、瓦礫の撤去や被災家屋の修復等のボランティア活動に当たってくださった。
・その他にも民間団体との野球交流や大学との文化交流など多大なるご支援をいただいたところ。
・こうした復興支援への感謝の気持ちを示すため、米国を相手国として復興「ありがとう」ホストタウンに申請し登録を受けた。
・登録後、二つの交流事業に既に取組んでいる。まず一つ目に、生涯学習関係者を対象に例年開催している生涯学習推進のつどいに在札幌米国総領事館の領事をお迎えし、これからの国際交流と題したトークセッションを開催した。言葉だけに頼らないコミュニケーションの可能性やSNSを使った情報発信の重要性、シニア世代が国際交流で担う役割など、領事の貴重な経験談をお話いただいたところ。
・二つ目に、本年３月11日～13日にかけ、被災当時に救援活動に当たられた救助隊の隊員２名を当市に招待した。その際には、市民や保育園児の歓迎セレモニーでお迎えし、捜索救助活動に対する感謝の気持ちを改めてお伝えした。また、震災後に高台に新築した大船渡市防災センターを訪問していただき、当時活動を共にした当市消防隊員と再開を果たしたほか、地元高校生による和太鼓披露や和装での茶道体験など日本文化を体験していただく時間も設けた。お二人は当市のおもてなしに大変感激されており、限られた時間の中で内容の濃い交流ができたと考えている。
・本年度の交流については、まず米国の若手ジャズバンドを迎えコンサートを予定している。日中には市内の小学校を訪問し、アメリカ文化やジャズに関するワークショップを開催する予定。
・次にサンディエゴとの野球交流。平成25年度に当市の野球少年達がサンディエゴに招待されたことをきっかけに毎年実施しているもの。本年度はサンディエゴから十数名が当市を訪れ、夏祭りへの参加や交流試合を予定している。
・また、在札幌米国総領事館を通じて、米国関連書籍の寄贈とこれに伴うセレモニー、読み聞かせイベントの開催も予定されている。秋ごろの実施に向け調整を進めているところ。

・最後になるが、当市と同じく米国を相手国としてホストタウンに登録されている千葉県佐倉市、成田市、印西市のご協力をいただき、米国陸上選手との事後交流実現に向けて、全米陸上競技連盟とコンタクトを図るなど、可能性を模索しているところでもある。

（鈴木浜松市長より説明）
・当市の特徴の一つは、南米の日系人が最も多く在住する日本の中でも移民の先進都市であること。
・1990年に入管法が改正され、ブラジル、ペルーといった南米系の日系人が大勢日本に入ってまいりまして、特に自動車産業が盛んな中部地区にたくさん居住することになった。
・最盛期には浜松市に約２万人も在住しており、リーマンショックで少し減ったが、現在では約9,000人を超えるブラジル人の方が浜松市に在住している。日本で一番数が多く、25年以上、多文化共生に取組んできた。
・2008年には私もブラジルを訪れ、当時の大統領に直訴し、是非、浜松市に総領事館を設置して欲しいとお願いした。その後、総領事館を設置していただき、今でも中部圏のブラジル移民の中心都市となっている。このような環境があり、我々にとってブラジルの選手団を受入れるということは自然のことであり、ブラジルの選手団、パラリンピック選手団を受け入れる決断をした。
・また一方、当市では2003年に全国に先駆けてユニバーサルデザイン条例を制定。ハード・ソフト含めて障がい者に優しい街づくりを進めている。そういう面からもパラリンピックに力を入れていこうと考えている。
・2017年６月にはブラジルオリンピック委員会と覚書を締結し、2017年８月には、ブラジルにおいてパラリンピック委員会と基本協定の締結をした。今、着々と選手の受入に向けた準備を進めている。
・様々な取組を展開しているが、これまでの取組としては、2017年６月にブラジルの柔道選手団を受入れ、合宿中には市内の高校生など207名が参加して交流を行った。11月にはブラジリアンユーススクールゲームス、日本で言うところのインターハイにご招待いただき、浜松市の高校の陸上選手２名を派遣して100mは３位、走り幅跳びは２位という成績をおさめたところ。
・今年の２月には、様々な団体、64団体に参加してもらいブラジルホストタウン推進浜松市民会議を設立。パラリンピックについては全22競技全選手団を当市で受入れる予定であり、市一丸となって受入の準備を進めている。ホテル等のハード面の整備や、ボランティアの養成も大変大事だと考えており、今からしっかり下準備を進めて、９月にはパラリンピック選手団の受入計画を策定したい。
・ブラジルとの関係はこれからも続いていく。パラリンピック・オリンピックを契機に更にブラジルとの関係強化を図っていきたい。また、移民先進地域としてブラジル人の受入を積極的に取組んでいきたい。

（牧野士別市長より説明）
・道都・札幌市、日本最北の地・稚内市の間は400kmあるが、その中間に位置するのが当市である。札幌までは200kmあるが車で、あるいは電車で約２時間、旭川空港までは約１時間。積雪寒冷地にして自然災害が非常に少ないということで合宿の聖地として頑張っている。昨年の合宿者は長距離や一般種目、ウエイトリフティング、スキージャンプなど延べ23,000人。そういうことから、この度、ホストタウンとして台湾を相手国とした。
・当市は平成元年、はまなす国体の際にウエイトリフティングの会場になった経緯がある。今も男子のナショナルチームは士別で合宿を行っている。自然環境が素晴らしいということで、皆さん自己新記録を出していかれる。ウエイトリフティングの強豪である台湾と交流しようということで進めているところ。

・昨年、当市、和寒町、剣淵町、幌加内町の一市三町の首長でトップセールスを台湾で行った。当市のみならず、それぞれの地域も台湾との交流が非常に多い。この際に、台湾ウエイトリフティング協会と包括的な協定を結び、その後、台湾の大学などのウエイトリフティングチームの合宿受入れを行っている。合宿受入の際には、茶道、弓道、高校との交流なども行っているが、当市は農業の街ということもあり、食の取組を推進しているところ。
・2009年には農協と農業者がグループとなって日本で初めてGLOBALG.A.P.のグループ認証を受けた。合宿に際しては資料にもあるように、公認スポーツ栄養士の方にも入っていただきながら、安全安心な食をPRし、GAP食材の提供を行っている。台湾の皆様にも非常に満足いただいているところ。
・その他にも、地元高校が修学旅行で台湾を訪問し、現地の高校生徒の交流などを実施。
・また、３年前に台湾の男性合唱団を士別にお迎えしたことを契機に、今年は当市の合唱団を台湾に派遣し具体的な交流を予定。
・2020年に向けて一歩一歩力強く前進していくとともに、将来展望を見据えて取組んでいきたい。

（山口笠間市長より説明）
・当市はエチオピア、台湾、タイを相手国としてホストタウンに登録されている。本日はエチオピアとの交流についてお話させていただく。
・エチオピアは非常に遠い国。交流がスタートしたきっかけは、約40年前にエチオピアの方が、陶芸の街である当市に焼き物をやるために定住されたこと。当初はそれほど交流が深かったわけではない。もつ一つ大きなきっかけが、平成24年にエチオピアに消防車両の寄贈を行ったこと。昨年も２台目を寄贈した。その仲立ちをしたのが、40年前に当市に定住したエチオピアの陶芸家の方だった。そうしたことがきっかけとなり、大使館との交流も活発になってきた。大使に当市にお越しいただきマラソン大会時等の様々な行事に参加していただいている。
・これまでの経緯を踏まえて、エチオピアを対象に陸上事前合宿を誘致しようと、昨年の５月に私がエチオピアを訪問して陸上競技連盟会長やIOC委員等へプレゼンをさせていただき、ホストタウンに登録されるに至った。
・帰国後すぐには、エチオピア・フェスティバルを地元で開催させていただいた。
・今年の１月には、当市で開催した県下中学校交歓笠間市駅伝大会にエチオピアの中学生を２名招待し、地元中学校と連合チームを作って参加いただいた。当市の中学生もエチオピアの方と交流するのは初めてであり、距離感があるかと思ったが、子ども達は適応が早く、またスポーツに言葉はいらないという事を改めて感じたところ。
・今後の活動については、市民レベルの交流を深めていきたいというのが１つある。
・この８月にはスポーツ国際交流員（SEA）の制度を活用し、エチオピアの陸上競技指導者の方に笠間市役所に勤務していただき、市内の小中学生のジュニアの陸上の強化。さらには交流の調整、陸上指導員のスキルアップ、スポーツ大会の運営等を担っていただく予定となっている。
・エチオピアのオリンピック委員会の方からは、高地トレーニングがエチオピアのオリンピックに向けた最終的なトレーニングとなるので事前合宿は当市ではなかなか厳しいという意見もいただいているが、それはそれとして、これをきっかけに大会後の交流をより一層深めていきたいというのが、当市の希望である。

（東村福井市長より説明）
・本市は昨年12月11日にスロベニアを相手国としたホストタウン登録を受けた。スロベニアを相手国とした理由は、本市とスロベニアの共通点としてそばや水仙があること。そばについてはスロベニアの年

間消費量は日本よりも多く、そば粉をパンやパスタにして習慣的に食べる文化が根付いている。一方、当市では越前おろしそばが市民が愛する名物となっている。水仙については、スロベニア北部に水仙が群生しており、毎年５月に水仙祭りが開催されている。また、本市の越前海岸は房総半島、淡路島とともに水仙の日本３大群生地の１つとして知られており、毎年１月には水仙まつりを開催している。これらの共通点がスロベニアと本市とを結びつけるきっかけとなり、ホストタウン登録を行うこととなった。

・昨年12月８～９日にスロベニアの大使を本市に招聘し、事前キャンプの際に必要となる体育施設や宿泊施設等を視察していただくとともに、一乗谷朝倉氏遺跡や養浩館庭園等、本市が誇る歴史文化や食など、魅力にも触れていただいた。

・今年4月17～18日には、事前キャンプ誘致のため、スロベニアのバスケットボール連盟の会長をはじめ５名を本市へ招へいし、体育施設や宿泊施設を視察いただいたところ、私にも分かるパーフェクトという言葉を何度も用い、高い評価をいただいた。連盟の方々の来訪にあわせて、小学校児童による歓迎出迎えを行った。子ども達はスロベニア語で挨拶し、質問タイムでは、連盟の方々の見上げるような身長について質問していた。連盟の事務局長は身長212cmのNBAで活躍されていた元選手。これらの質問や連盟の方々と子ども達とのハイタッチ等を通じて、和やかなムードに包まれた。また、交流事業として、本市の高校で、バスケットボール部の生徒に攻撃面のアドバイス・実技指導を行っていただいた。アメリカのＮＢＡで、共にプレーした選手のエピソードなども紹介していただき、生徒達は大いに盛り上がっていた。

・ホテルにおいては、料理人の方が、京都のスロベニア料理店を予め訪問し、勉強したうえで、合宿時をイメージした料理を昼食として提供するなど、連盟の方々にリラックスしていただけるよう、「食」でのおもてなしに配慮。

・市民への周知については、市政広報誌への掲載や市役所市民ホールでのパネル展示等、図書館での紹介ブース設置など、市民の理解を深めるため、スロベニアの紹介に取り組み始めたところ。５月26日には、多文化共生イベント「グローバルフェスタ」を開催し、スロベニアの紹介ブースを設けて、来場者にスロベニアの情報に触れていただいた。

・本格的な取組はこれからとなるが、スポーツのみならず、教育や文化等の分野においても交流していきたいと考えている。スポーツでは、事前キャンプの受け入れや、パブリックビューイングによるスロベニアの応援、選手の来日に合わせた子ども達へのスポーツ指導教室の開催等を想定。また教育分野では、学校でスロベニアについて学習する機会や、給食時におけるスロベニアのメニューの提供を検討中。文化交流では、本市との共通点であるそばや水仙を切り口としたスロベニアのＰＲ展や友好のシンボル育成等を検討していく。これらの取組を通じて、市民レベルでの交流を深めていくことが重要であると考える。

（３）　最近の情勢について

①　ホストタウンの推進状況について

（多田内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局企画・推進統括官より説明）

・資料3－1をご覧いただきたい。先ほど具体例のご説明もあり、数・内容ともに充実しつつあるが、特に４ページの事後交流型ホストタウンについてお話したい。そもそもホストタウンは事前キャンプが要件ではないが、多くの自治体ではキャンプの誘致に取組んでいるところ。一方でキャンプ誘致にエネルギーがかかり過ぎて、交流の取組になかなか手が回らないというような実情もあると伺っており、若干懸念をしているところ。また、一方で相手国の競技団体から、複数の自治体から声がかかり、大変あり

がたいが、選ぶのが大変という声もあると伺っている。今後キャンプ地がどんどん決まっていくことになると思うが、そういう中で、同じ国の同じ競技を誘致している自治体で、場合によっては連携して事前キャンプと事後交流という形で取組む事も一つの方法ではないかと考えている。事後交流について普及を図っているところなので御認識いただければ幸い。
・５ページをご覧いただきたい。昨年の例であるが、在京ドイツ大使館で、ドイツを相手国とする自治体が一同に会した交流が行われた。参加された自治体からは大変好評であり、それぞれの自治体の取組状況の情報交換、あいは連携、更には相手国の理解・交流の中身の充実といったものに繋がるという声を伺っている。他の国の大使館に是非、同様の取組はどうかと伺うと、担当の方から、自治体から声をかけていただければ大使に話を振れるという声もある。是非、お声がけいただき、やりたいというお話をされれば、大使館も取り組みやすいのかなと考えている。
・６～７ページは私どもで開催しているイベントについて。Host Town Lineupsは、７月にソラマチ、スカイツリーの下で開催するが、実はまだ枠があるので、ご希望のある方は事務局までお問い合わせ願いたい。ホストタウンサミットについては、大使館にも参加いただき、交流を広げていきたいと考えている。次の予定は検討中であるが、是非、ご関心を持ってご参加いただければ幸い。
・８ページについては、ホストタウンの宣伝について。様々なメディアを使って国内・海外に向けて情報発信し、皆様のお手伝いをさせていただいているので、色々な取組の情報を提供願う。
・９ページは、様々な財政支援について。ここでご覧いただきたいのは、一番下の部分。ホストタウンに関わらないが今年からできた制度で、公共施設等のユニバーサルデザイン化のための改修事業について、交付税措置つきの地方債を措置することとなった。是非、ご活用いただけたければと思う。これ以外にも様々な省庁、様々な直接ではないにせよ関連する取組をまたご紹介させていただきたいと考えている。
・１０ページをご覧いただきたい。これはご担当の方、随行の方にまずお願いしたいことだが、心のバリアフリーのアニメーション教材がウェブで閲覧できるので、まずご覧いただき、上司の方にご報告いただきたい。
・最後のページは、ホストタウンのまだ成立していない112ヶ国・地域の一覧。対象国を広げようと考えている自治体、あるいはご近所でホストタウンに手を挙げたいと思っている自治体に是非、ご紹介をいただきたい。もちろん、一つの国で複数のホストタウンが出来るので、ここに掲載されていない国でも引き続き取組いただければ幸い。

②　食文化の発信について
（多田内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局企画・推進統括官より説明）
・資料3－2をご覧いただきたい。食の関係について、真ん中の下から二つ目の段落がポイント。選手村など組織委員会が提供する食材については国産優先とされているが、産地から産地表示ができなかとご要望がかなりあった。私どもも重要だということで組織委員会とご相談し、産地表示をする方向で確認がとれたので、ご紹介する。これによってGAPなどの調達基準を満たす食材が広がっていくのではと期待しているところ。

③　beyond2020について（文化の発信）
（多田内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局企画・推進統括官より説明）
・資料3－3をご覧いただきたい。ホストタウンに限っていないが、全国で文化の取組を進めていただきたい。特に、障がい者にとってのバリアを取り除く、もしくは外国人の方にも親しんでいただける、そういう文化事業を進めていただきたいということでbeyond2020プログラムという認証事業を１年６か月

前から開始している。事例を紹介するのが一番わかりやすいと思う。４ページ以降が事例であるが、６月に開催された東北絆まつりにおいては、日英標記のガイドブック、パレードの時には中国語のアナウンスもあった。また、バリアフリー用に手話通訳、車いす利用などの取組も行われている。現在4,600件まで広がっているので、是非、取組みいただければ幸い。

④　聖火リレー等について

（山本東京オリンピック･パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長より説明）

・ホストタウンの皆様におかれては、日ごろから組織委員会の業務にご理解・ご協力をいただき感謝申し上げる。大会の成功のためには世界から来られる選手をお迎えし、おもてなしする皆様の力が必要不可欠。今日は、貴重なお時間をいただき、皆様と力を併せて進めていきたい取組について、いくつかご紹介させていただく。

・資料3－4の１ページをご覧いただきたい。まず聖火リレーについて。去る４月10日にオリンピックの聖火リレーのコンセプトを発表した。日数については表に記載のとおりであるが、総日数は114日に移動日を加えた日数としている。現在、都道府県に実行委員会の設立・運営、ルート設定等について様々なご協力をお願いをしているところ。

・続いて２ページをご覧いただきたい。東京2020参画プログラムの拡大について。全国の皆さんと大会を盛り上げていくため、2016年の10月から参画プログラムがスタートしており、既に５万件のアクションを参画プログラムとして実施、あるいは計画していただいているところ。今後もさらなる拡大を目指していくが、ホストタウンが実施する事業については、ご覧のとおり特別なマークが使用できるようになっている。これにより、東京都や競技会場が所在する自治体と同じように、大会エンブレム入りのマークを使っていただけるようになっているので、よろしく願う。

・３ページをご覧いただきたい。あなたの街の祭りをご申請くださいということで、地域にある夏祭り、秋祭り、盆踊り、伝統行事など、こうした祭りを応援プログラムにご申請いただくことにより、地域の行事やあるいは地域が2020年大会と繋がっているという取組を進めているところ。更に、お祭りで皆様に是非、東京五輪音頭-2020-を踊っていただきたい。４ページであるが、1964年の大会の際の、63年に発表された三波春夫さんで有名な東京五輪音頭、これをリメイクして現代風にアレンジした。昨年は振付が難しいという声を頂戴したが、お年寄りや小さいお子さんでも踊っていただけるような簡単な、幅広い世代に踊っていただける新しい振付を制作した。皆様方に６月中に都道府県を通じて、振付動画のDVDを配布させていただきたいと思っているので、ご活用いただければ幸い。併せて、法被やうちわといったライセンス商品もご用意しているので、ご活用いただければと思う。

・６ページをご覧いただきたい。2020年に参画プログラムの集大成として、東京2020Nipponフェスティバルを行いたいと考えている。今後、自治体の皆様と連携し、2020年の４月ごろ、ちょうど聖火リレーが始まるころであるが、全国で様々な文化プログラムを行いたいと計画している。こういうフェスティバルについては、2012年のロンドン大会においてもイギリス全土で実施され、観光客の増加や新しい雇用を生むことに繋がったと伺っている。2020年大会でも東京だけでなく、全国各地に大きなレガシーが残るよう、聖火リレー等とも連携しながら進めていきたい。

・最後に７ページ、メダルプロジェクトについて。携帯電話や小型家電をリサイクルして金属を取り出し、金銀銅メダルを作製するメダルプロジェクトとなっている。回収期間終了まであと10か月となっており、既に皆様方に大きなご協力をいただいているが、更なる回収強化に向けて引き続きご協力をお願いする。

・本日で東京オリンピック大会まで779日、パラリンピックまで811日となっている。全国のホストタウンの皆様から、大会気運の一層の盛り上げをお願い申し上げ、私からの御報告とする。

（４）　意見交換

（村山市）

・昨年、６月からブルガリアの新体操代表の事前合宿を１週間受入れ、今年も来週から受入を予定している。これに関して、合宿受入時にボランティアに従事していただいた方々が、ファンクラブを結成したところであるが、このファンクラブの中で2020年に会場に応援に行こうという話が出ている。

・ここで問題は席の確保である。これについて、事前に予約、あるいは優先的に席を確保いただくことはできないか。

（山本東京オリンピック･パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長より説明）

・チケッティングに関しては、今現在、戦略、あるいはプライシングを含め有識者会議で検討しており、色々な意見、例えば小中高生に観戦していただくようなプログラムを８万人規模で実施したいという意見等もある。その他、これから、今いただいたようなご意見も当然出てくると思われるので、まだ発売までは１年近くあるが、そういったご意見をしっかり踏まえ、有識者会議でもしっかり検討させていただきたい。

（５）　今後の予定

（勝野内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局参事官より説明）

・本会議は定期的に継続して開催したいと考えている。引き続きよろしくお願い申し上げる。

３．まとめ

〇平田内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局長

・本日は、第１回ホストタウン首長会議にお集まりいただき感謝申し上げる。

・2020年に向けて、ホストタウンの取組はオリンピック・パラリンピックにとって大変重要な取組である。このため、各ホストタウンが常日頃からご努力されていることに大変感謝しているところ。他の自治体はどうしているのか是非、情報共有していただき、より厚みを増した取組を行っていただこうということでこの集まりを設定させていただいた。

・また、オリンピック・パラリンピックについてはホストタウンだけではなく、組織委員会の情報を含めた全体像を皆様にご理解いただくことが重要。オリパラ事務局とともに各市町村と連帯感を持って2020年を迎えたいと思い、この会議を始めさせていただいた次第。

・６年後にはパリ、10年後にはロサンゼルスがオリンピック・パラリンピックを控えているが、私たちのやり方が、パリやロスの参考となり真似されるように、大成功する東京大会にしたいと思っているので、是非ともよろしくお願い申し上げる。